

【第3回環境審議会の詳細】

時間 15:00～17:00

場所 ニセコ町役場第2会議室

出席 本間泰則委員、柴田真年委員、黒滝 博委員、阿部武吉委員、チャーチル真知子委員、
牧野雅之委員、猪狩和大委員、葛西奈津子委員、中川 明委員
片山町長、山本課長、桜井係長、大野主任

欠席 新谷志織委員

主な内容

平成28年度9月～11月に行った環境に関する主な取組

今年度委託事業「第2次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」

今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」

平成29年度予算環境モデル都市推進係事業ヒアリング資料

1 開会

2 報告事項

- ・平成28年度9月～11月に行った環境に関する主な取組（資料1～資料2）

資料1、資料2について、事務局より説明を行った。

【質疑・意見等】

- ・湯心亭の熱交換器の効果はどの程度なのか。
→9月に設置して約2ヶ月経過したが、10月で昨年と同じ時期と比べて灯油の使用量が約1000L減ったとのこと。ただ入浴客も減っている。
- 入浴客数と灯油使用量だけでもわかれば効果をPRできる。
- ・湯心亭に熱交換器が導入されたのは昨年度のGPP事業の成果である。1ヶ月1000Lで6万円とすると、年間72万円削減できる。初期投資と回収年数はいくらか。
→初期投資は770万円、そのうち北海道の一村一エネ事業で補助金が340万円。アドバイザーと訪問したときには湯心亭としては灯油の単価が上下するので補助金を利用して5年で回収できると考えているとのことだった。湯心亭は暖房にガスを使っており、灯油は給湯にのみ使用しているため、入浴客数と灯油使用量を教えてもらうようにする。
- この取組を他施設に広げていくことが大事。
- ・4月から10月の昨年度のほくでんと比較した新電力の電力購入量とCO2排出量の表が興味深い。これらの施設の電力はすべて水力発電からの電力でまかなわれているということか。
→電力は使用量が一定ではないので、水力発電だけではまかなうことはできない。足りない分は市場から調達してきている。
- うちのホテルでも新電力に変更しようと思っているが、足りないときは北電の余剰電力を市場から調達するとのこと。
- ・もし水力発電だけでまかなえばCO2排出量はゼロになるのか。
→水力発電所からも設備等の関係で少ないがCO2は排出される。ただし、発電時に限るとCO2の排出はないので、水力や太陽光などで発電した電気を利用する場合は、排出をゼロと算出するルールとなっている。
- 北海道では支笏湖周辺だけ全部水力発電の電力が供給されている。発電所の関係で供給さ

れる電力の周波数は 60Hz である。

→ニセコ町にある水力発電も 60Hz で、過去に町内に川北電力という電力会社があり、60Hz で供給されていた。王子製紙が 7 年位前に機械を入れて 50Hz に落としてほくでんに販売していた。

・王子伊藤忠エネクスに替えた 10 施設の効果が出てきているが、節電も同時に取り組んでいかないといけない。その辺はどのようにしているか。

→役場で地球温暖化対策実行計画を作成し、計画に基づき毎月推進員がチェックしている。

10 公共施設ではそれぞれの担当課で節電を確認するようにしている。

・口頭で説明のあった 11/18 の stuben トークショーと 11/28 の札幌開成中受入も大変有意義な取り組みだった。なぜここに記載していないのか。

→資料作成時期がトークショー前だったため。次回の審議会では記載する。

→11/18 はひらふ在住で世界中を回って、とてもいい写真をとるカメラマンでスキーヤーの渡辺洋一さんが、ヨーロッパなどのスキーリゾートの電気や熱に風力発電や木質バイオマスなどが使われていることに気づき、今回の雑誌に「山岳リゾートと自然エネルギー」というテーマでニセコ町も取り上げていただいた。普段、役場とは接点のない方がたくさん聞きにきて、自分たちが楽しんでいるリゾートを将来も残していくためにはどうしたらいいのかという問題提起で、すばらしい取り組みだった。渡辺さんが進行し、ひらふ在住でスノーボードデザインやパタゴニア社のグローバルアンバサダーとして活躍する玉井太朗さんと役場の大野の 3 人で、写真を見ながら話をするやわらかい雰囲気が進められた。

・11/28 の札幌開成中も 160 名がニセコ町の環境の取組を研修旅行として見に来てくれた。

3 審議事項

(1) 今年度委託事業「第 2 次ニセコ町環境基本計画見直し・環境白書作成支援業務」(資料 3)

(2) 今年度委託事業「ニセコ町環境モデル都市フォローアップ資料作成支援業務」(資料 4 ~ 7)

(3) 平成 29 年度予算環境モデル都市推進係事業ヒアリング資料 (資料 8)

別紙資料 3 について、事務局、委託先のコミュニティ研究所の梅田氏より説明を行った。

・大変な力作だった。どうこの内容を町民に広く知ってもらえるかが重要。物語をどう読んでもらうようにするか。どういう形で白書として伝えるのか。

→総集編、データ編、物語の 3 部構成だが、別に概要版を作って全戸配布を考えている。物語は広報で何回かに分けて取り上げることも考えている。議員含めて関係者には印刷して冊子として配布予定。

・例えばラジオニセコで連続して朗読したり、中高生の教材や視察に来た方への資料として活用するなど考えられないか。

→この物語はラジオニセコ劇団の台本を書いている方にも読んでもらい、有意義なコメントをいただいた。朗読するためには修正が必要だが、いいアイデアだと思う。

・作って終わりではなく、活用のスタートと考えたい。

・地域おこし協力隊で絵が描ける方がいるので、その方をお願いして挿絵も入れる予定。

・予算の問題もあると思うが、今年度足りなくても来年度の予算をつけるなどして対応してほしい。

→中身については、委託先の好意に甘えているが、印刷はしない予定。

・今回拝読させていただいて、期待以上の内容で感銘を受けた。まちづくり基本条例のよう

に少なくとも小さな冊子にして町内の小中高校生または町民に配布したり、新しく住民になられた方にお渡しできるといい。今回観光圏の仕事でサイクリングマップを作成したが、eBook になっている。著作権があれば難しいが eBook 化すればスマホなどでもページをめくるように簡単に読める。

- ・ 3月までにまだ手直しするので、感想でも気づいた点があればぜひいただきたい。

資料4～7について、事務局より説明を行った。

- ・ たくさんの数値が並んでいるが、CO2 排出量が目標どおりには削減できておらず、増えている。町としてはどう削減していこうと考えているのか。
- 次のヒアリング資料で削減していくために来年度どのような事業を行っていくのか記載している。

資料8について、事務局より説明を行った。

- ・ 平成29年度は民間ホテル等 CO2 排出削減設備導入支援、家庭向けエコポイント制度や楽しく環境を学ぶ「省エネ講座」など環境モデル都市アクションプラン関連施策推進、市民電力会社設置に向けた検討、地熱発電計画に伴う地元協議会の設置等を行っていく。
 - ・ 一般家庭向け楽しい「省エネ講座」に関連して、北海道環境財団と連携して「エコナイトカフェ」の開催を考えている。
- せっかく環境審議会に参加させていただいているので、お役にたきたいと思い、提案させていただいた。環境に関心のない方にも「落語」などの別の切り口でやわらかい雰囲気連続講座をしたいと考えている。また、それを聞きに来れない方にも聞いてもらえるようラジオニセコで放送してもらえるといい。
- 審議会の目指す方向としては一致している。ぜひ実現してほしい。
- ニセコのワインなどを飲みながらできたらもっといい。

自由意見交換

- ・ CO2 排出量の算出にはあまり広く調査するのは大変なので、調査先は絞るほうがいいと思う。環境白書の物語の内容はすばらしかった。白書の一部とするだけでなく、何か環境と別のものと組み合わせて普及したらどうか。話の内容はニセコ町内だけでなく、尻別川流域全体にまたがるので、羊蹄山麓全体の普及媒体にしてはどうか。
- しりべつりバーネットで過去に松浦武四郎がたどった場所を喜茂別から蘭越まで実際に川くだりをしており、それが BYWAY しりべしに掲載されている。今回もニセコ町の地図を入手し、地図と照らし合わせて NOC の南さんに協力をいただいて、実際に川くだりをした。
- ・ 大学で科学技術コミュニケーションを扱っており、科学を物語や演劇で伝えるということに取り組んでいる学生もいる。今回も学生がオビラメの会の取材をし、次の次の号の BYWAY しりべしに掲載予定。ヒアリング内容だけでなく、川や文化も含めて記事を書いたらどうかという助言をしている。この物語を学生に見せてもいいか。
- 問題ない。
- ・ エコナイトカフェは、7月にサイエンスカフェを中央倉庫で行ったので、その発展形態として今後も連携させていただければありがたい。
 - ・ 先日携帯電話の電波塔が建つということで説明会があった。スマホが普及して移動しながら携帯を使う人が増えたので、建てなければいけないという説明だったが、景観だけの問題ではなく便利だから有無を言わず貢献しなければいけないということに違和感を感じる。

- ・有島でやぐらが立って温泉を掘っているようだが、温泉が出た場合、有島灌漑溝など環境への影響が心配。
- 電波塔はわからないが、有島で温泉を掘っている事業者とは10月に東京で会ってきた。町も補助金を出して造成した有島ポンドでイトウを飼っており、試掘したときの排水であっても第2カシュンベツ川の水量が少ないので、イトウへの影響が大きいということで、説明をした。先方も理解してくれ、試掘の際の水であっても排水しないし、今後何かあったときには相談していただけるということで了承をいただいた。
- ・温泉は保健所の許可が必要。半径500m以内の源泉所有者の同意が求められる。
- 半径500m以内には源泉所有者はいない。
- ・排水しないにしてもあの場所に温泉が出て、施設ができるのは問題ではないか。
- 現在あの場所に施設を作ることに對して、規制するルールはないのが現状。
- 地下水保全条例もあるが、地下水の枯渇や地盤沈下を防ぐことを目的に、大量に地下水をくみ上げる際に毎月のくみ上げた量を町に報告する義務を課すもので、温泉は対象外。趣旨が違うので、温泉を規制するためには新たな条例を作る必要がある。
- 建築申請もそうだが、温泉についても町を経由しないで、直接北海道から許可が下りる。建築に関しては必ず町を通してもらうよう話し合っている。温泉についても何らかの規制ができるよう条例を作りたい。
- 北海道にとっては、ニセコ町だけが要望しても、考えてくれない。他の町と連携して要望することが必要ではないか。
- 公害問題も同じだが、1自治体だけでは聞いてくれないが、取り組む自治体数が増えれば国が法律を変えることもある。
- ・地熱発電は、さらに大規模で試掘であっても大変な規模になる。来年11月頃に町が主体となった協議会を立ち上げるということだが、排水や景観ももっと大きな問題になるだろう。地熱発電はクリーンなイメージだが、環境を破壊してまで実施することはありえない。先日の勉強会でどの程度の可能性があるのか事業者に質問したが、5分5分とのことだった。とはいえ、投入する資金も大きいので、とりあえず掘ってみようということではなく、それなりに勝算があつてのことだと思う。こういった地熱発電も包括的に規制できるような条例にしてもらいたい。

4 その他

- ・12/4に北海道経済産業局と共催で「親子 de 省エネ・節電お料理教室」を開催する。関心のない方にも来てもらうきっかけづくりにしたい。
- ・次回は3月第1週ころを予定する。改めて日程調整する。

5 閉会

片山町長

最近国が言っていることと実際の法制度の方向性が逆を向いており、地方分権ではなく中央集権を進めているように感じる。そのため、今はより地域が覚悟を持って、自分たちの地域を変えていく必要があると考えている。新しく何か始めるときには必ず反対がある。地熱も日進月歩で技術が進んでいる。地域の情報を地域で把握し、環境で生きていくことができるようにしたい。予算がなくても思いがあれば可能だと思う。